

新田梢(フィールド科学)・片平浩孝(環境生物学)・坂西梓里(フィールド科学)

研究の背景

近年の重要な環境課題の一つに、「生物多様性」の喪失があります。2030年までに地球の陸と海の30%を保全する目標「30by30」が設定され、「OECM」(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)として、緑地や里山など地域の自然の保全が期待されています。

特に、地域の緑地は、希少な動植物の逃避地となり、自然を身近に感じられる憩いの場所として利用されてきました。一方、その重要性が十分に把握されないまま開発が進んだり、適切な管理がされずに放置されたりして、出現種数の減少や外来種侵入など、様々な問題がおこっています。



アプローチ

関東地域(神奈川県や東京都)に残る緑地で、いつ・どこに・何があったかについて、植物を中心とした生物調査を行います。2024年度から、主に、相模原市道保川公園にて、公園を管理する「横山公園グループパートナーズ(代表団体 横浜緑地株式会社)」と生物調査を行う「NPO法人生態教育センター」のみなさんと協働して、植物調査や維持管理活動、環境教育イベントのサポートなどを実施しています。

フィールドワークとデータ解析から、植物相の把握や生物多様性の評価を実施し、公園の維持管理計画へのフィードバックを目指します。連携での活動を通して、地域の生物多様性の価値について、総合的に検討します。

期待される結果

- ◆ 地域の緑地の生物多様性を評価
生物多様性の実態を把握し、公園の維持管理計画や地域の生物多様性保全に活かします。
- ◆ 産学官連携で現場の技術を学ぶ
活動を通して、調査技術を高めるとともに、公園スタッフや市民のみなさんとの交流を通して、公園管理業務や生物多様性保全の現場を学びます。



募集方法

募集人数は3~5名程の予定です。

学生のみなさんは、野外でのフィールドワークを通して、基礎的な調査技術、植物を中心とした野生生物・自然環境の基礎知識を習得できます。さらに、現場での活動を通して、協調性や積極性を高めることも期待されます。野外フィールドに興味があり、積極的に活動できる皆さんの参加をお待ちしています。